

日本法制史〈B05A〉

配当年次	2 年次
授業科目単位数	4
科目試験出題者	山口 亮介
文責(課題設題者)	山口 亮介
教科書	基本 本間 修平『日本法制史』(中央大学通信教育部)

《授業の目的・到達目標》

【本講義の目的】

東洋・西洋を問わず様々な法と制度の影響を受けて形成されてきた日本の法を考える上で、その歴史的前提に遡って検討を加えることは、現代法をより深く理解するうえで有益な営為であるといえる。本講義では以上のような問題関心のもとに、日本にとどまらず国内外の様々な法制度や法概念を歴史的な観点から比較・分析・評価する知的態度を涵養することを目的とする。

【本講義の到達目標】

1. 法制史(法史学)の学習を通じて「法」というものが国家や社会において持つ意味とその多様性を認識・理解することができる。
2. 各時代における「法」のあり方やその歴史的展開についての検討を通じ、そこに現代の日本法とどのような接続あるいは断絶が存在するかを学び取り、その知見を現代法諸科目の学習に活かすことができる。

《授業の概要》

本科目では、日本の前近代を大きく古代・中世・近世の3期に分け、各時代の法源(法典・法慣習や道德・法令や判決例)・行政機構(行政機関の組織と主な職掌)・刑法(犯罪と刑罰・制裁)・取引法(売買・貸借・担保)・家族法(親子・婚姻・離婚・相続)・司法制度(裁判機関・管轄・手続・判決)などのあり方がそれぞれどのようなものであったか、時代によりどのような違いがあったのか、その理由は何か、等について考察を行う。また、明治期については近代化をめざした政府がどのように法を整備し、司法制度を整えたのか、また法学教育はどのように行われていたのかなどを中心に検討していきたい。

《学習指導》

事前学習として、テキストの読解を行う前に、目次や各章・節の見出しを確認して、取り扱われている時代や法にかかわるテーマごとに、各受講者が学習・スクーリング開始時点でどのようなイメージを持っているかについて整理した上で学習を始めてもらいたい。

事後学習として、テキストの読解やスクーリングの受講を通じて、事前学習で得た法のイメージがどのように変化したかを整理するとともに、現代法のあり方との比較検討を行っていただきたい。

《成績評価》

試験(科目試験またはスクーリング試験)により最終評価する。

日本法制史〈B05A〉

- ◎課題文の記入：不要（課題記入欄に「課題文不要のため省略しました。」と記入すること）
- ◎字数制限：1 課題あたり 2,000 字程度（作成基準のとおり）

注意 教科書・参考文献のどの頁に依拠したかをレポート末尾に必ず記載すること。

第1 課題【基礎的な問題】

律令国家の行政機構について考察しなさい。その特徴・長所・問題点・変質などに注意して述べなさい。

第2 課題【基礎的な問題】

明治前期の法学教育について述べなさい。外国法の継受、法学教育のあり方、国家の政策などに注意して答えなさい。

第3 課題【応用的な問題】

御成敗式目について述べなさい。式目編纂の目的や背景、式目の内容、式目の制定が当時の社会に及ぼした影響などに注意して答えなさい。

第4 課題【応用的な問題】

江戸時代の離婚制度について述べなさい。律令の離婚制度と比較してどのような特徴がみられるかにも注意して答えなさい。

〈推薦図書〉

出口 雄一・神野 潔 他	『概説 日本法制史』（2018 年）	弘文堂
浅古 弘・伊藤 孝夫 他	『日本法制史』（2010 年）	青林書院
高谷 知佳・小石川 裕介	『日本法史から何がみえるか―法と秩序の歴史を学ぶ』（2018 年）	有斐閣
川口 由彦	『日本近代法制史』〔第2 版〕（2014 年）	新世社
水林 彪・大津 透 他	『法社会史』（2001 年）	山川出版社